

令和6年度 指定管理者モニタリング票

所管課名 福祉部 障害福祉課
電話番号 0835(25)2127

1 施設の概要

施設名称	(1) 防府市身体障害者福祉センター (2) 防府市愛光園 (3) 防府市大平園 (4) 防府市なかよし園 (5) 防府市わかさ園
設置目的	(1) 防府市身体障害者福祉センター 障害者に関する各種の相談に応じ、障害者に対し、機能訓練、教養の向上、社会との交流の促進及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与し、もって障害者の福祉の増進を図ることを目的として身体障害者福祉センターを設置する。 (2) 防府市愛光園 障害者の福祉を増進するため、障害者就労支援施設を設置する。 (3) 防府市大平園 障害者の福祉を増進するため、障害者支援施設を設置する。 (4) 防府市なかよし園 児童福祉法（昭和二十二年法律第百六十四号。以下「法」という。）第四条第二項に規定する障害児（以下「障害児」という。）の福祉を増進するため、法第三十五条第三項の規定に基づき、児童発達支援センターを設置する。 (5) 防府市わかさ園 障害者の福祉を増進するため、障害者生活介護施設を設置する。

2 指定管理者の概要

指定管理者	名称	社会福祉法人 防府市社会福祉事業団
	代表者	理事長 森重 豊
	所在地	防府市鞠生町1 2番2号
指定期間	令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日（3年間）	
選定方法	非公募	
(非公募の理由)	障害者福祉施設のもつ特殊性から、事業者が変わった場合、職員や環境が変わること、障害者の病状や精神状態に悪影響を及ぼす恐れがあり、障害者の自立を支援するという本来の目的に反し好ましくないため。	
利用料金制の有無	有	

3 指定管理業務の運営状況

業務内容 (具体的に)	別紙1参照
組織体制	○事務局 事務局長1人（常務理事兼務）、事務局次長1人、事務長1人（施設改善担当）、課長1人、事務職員2人 ○施設 施設長5人、副施設長2人（内管理栄養士1人）、課長1人、主査2人（内看護職員1人）、主任3人（内公認心理師1人） 常勤職員40人 支援員22人、児童指導員3人、保育士5人、理学療法士1人、作業療法士1人、言語聴覚士1人、看護職員3人、管理栄養士2人、栄養士1人、事務担当職員1人 非常勤職員17人 支援員6人、児童指導員2人、保育士2人、看護職員1人、業務職員3人、管理人3人 総合計76人
労務環境	制度及び事業計画に沿った人員配置を行い、適切な業務体制となるように努めています。また、労働条件の明示や、休憩時間の確保、健康診断の実施等、労務管理、安全衛生の保持に努めています。特に非正規職員に対して、できる限り本人の労働条件に合った内容での契約に努めています。

利用状況	令和5年度	令和6年度	令和7年度	—	—
①身体障害者福祉センター延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	5,000	4,300		—	—
実 績 値	5,305	5,145		—	—
分 析	訓練室や貸室の利用者数については、前年度と同等。利用状況については、機能訓練よりも理学療法相談での利用が増加している。				
②愛光園延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	13,300	13,300		—	—
実 績 値	10,682	10,247		—	—
分 析	利用者数は、前年度と同等。前年度に引き続き、感染症対策を行いながら通常の行事等を再開した。園内で新型コロナウイルスの陽性者が数名発生したが、登園自粛等の対応を行ったことでクラスター発生や休園はなかった。				
③大平園延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	25,989	24,153		—	—
実 績 値	19,477	20,703		—	—
分 析	新規入所者を5名迎え入れることができたことや、短期入所についても定期的な利用者や将来を見据えて施設に慣れるために利用される者、緊急での利用者などがあったため、前年度に比べ、利用者数が増加した。ただし、6年度末時点で、定員40名に対する入所者数は37名で定員割れとなっているため、引き続き、待機登録者の入所依頼を行っていく必要がある。				
④なかよし園延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	6,780	6,580		—	—
実 績 値	5,964	6,211		—	—
分 析	児童発達支援については、より良い支援を行うため、クラスを3つに分けたが、常勤職員の不足により、現場での受け入れが難しい場合があり、契約数の増加に繋げることができなかった。また、幼稚園や保育園の行事を優先し、施設の利用をキャンセルされるケースが多かったことも、目標値の達成に繋がらなかった要因の一つと考える。 保育所等訪問については、併用児童や児童発達支援の利用が困難な児童等の需要が多く、契約数が増加した。保育所や幼稚園等の本事業に対する理解と期待が大きくなってきていると考えられる。 放課後デイサービスについては、利用者の中に長期入院や、短期入所から入所に至ったケース等があったため、予定利用人数よりも減少した。				
⑤わかさ園延べ利用者数（単位：人）					
目 標 値	3,450	3,300		—	—
実 績 値	3,051	3,050		—	—
分 析	新規利用者が2名あったが、一方で体調不良により長期間利用中止した者、施設入所のため利用回数が減った者などがおり、全体の利用回数としては減少した。				

4 指定管理者の業務に係る収支状況

①指定管理業務に係る収支					
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	—	—
指 定 管 理 料	23,849,000	26,602,000		—	—
利 用 料 金	307,370,359	340,483,387		—	—
そ の 他	13,241,595	18,985,627		—	—
就労支援事業収入	9,612,919	9,219,314		—	—
その他の事業収入	2,156,170	4,884,970		—	—
経常経費寄付金収入	5,000	50,000		—	—
受取利息配当金収入	13	73		—	—
その他の収入	1,371,389	1,676,681		—	—
施設整備等補助金収入	0	2,025,000		—	—
積立資産取崩収入	96,104	1,129,589		—	—
収入計(a)	344,460,954	386,071,014		—	—
人 件 費	247,959,521	260,297,308		—	—
光 熱 水 費	12,072,791	13,357,122		—	—
修 繕 費	2,597,083	1,872,464		—	—
そ の 他	91,703,813	97,199,063		—	—
事業費	33,173,508	35,618,323		—	—
事務費	45,433,806	46,279,413		—	—
就労支援事業支出	9,822,678	9,170,319		—	—
固定資産取得支出	0	2,948,004		—	—
積立資産支出	3,273,821	3,183,004		—	—
支出計(b)	354,333,208	372,725,957		—	—
収支(a-b)	▲ 9,872,254	13,345,057		—	—
分 析	指定管理5施設の収支差額が、＋13,345,057円と大きく改善した。 主な改善要因は、施設の利用料金収入の増（＋33,113,028円）であり、特に、大平園は、利用率向上への取り組み強化により、利用料金収入が前年度比で＋24,528,430円となるなど大幅に改善された。 一方、支出については、定期昇給や人勸によるベースアップ及び最低賃金額改定により人件費が12,337,787円の増、また、事業費や事務費についても物価上昇等により増となっている。				
②自主事業に係る収支					
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	—	—
収入計(c)	—	—		—	—
支出計(d)	—	—		—	—
収支(c-d)	—	—		—	—
主な内容					

5 利用者満足度

調査概要	実施方法	(1) 身体障害者福祉センター：①利用者満足度アンケート調査、②日中活動についてのアンケート (2) 愛光園：①食事嗜好調査、②利用者満足度アンケート (3) 大平園：①食事嗜好調査、②利用者満足度アンケート (4) なかよし園：事業所評価アンケート（児童発達支援センター・放課後等デイサービスの保護者や併用している保育所や幼稚園に支援評価を実施） (5) わかくさ園：利用者満足度アンケート調査
	時期	(1) 身体障害者福祉センター：①②令和7年1月6日～2月7日 (2) 愛光園：①令和6年10月 ②令和7年1月 (3) 大平園：①令和6年9月 ②令和6年12月 (4) なかよし園：（保護者）令和6年11月20日～12月1日 （職員）令和6年11月22日～12月1日 （保育所等訪問）令和7年1月4日～1月31日 (5) わかくさ園：令和7年4月 ※令和6年度について
	回収率	(1) 身体障害者福祉センター：①②100% (2) 愛光園：①80% ②67% (3) 大平園：①95% ②100% (4) なかよし園：（児童発達支援センター）80% （放課後等デイサービス）67% （保育所等訪問）保護者78% 事業所67% (5) わかくさ園：53%
	満足度の割合	(1) 身体障害者福祉センター：①訓練室・講座・教室等利用者満足度80%、貸室利用者満足度37% ②記述式のため満足度は集計していない (2) 愛光園：①85% ②68% (3) 大平園：①94% ②87% (4) なかよし園：（児童発達支援センター）100% （放課後等デイサービス）100% （保育所等訪問）96% (5) わかくさ園：100%
対応状況		(1) 身体障害者福祉センター：①訓練室等利用者は、概ね満足されていた。一方、貸室利用者からは「建物の老朽化」、「部屋数が少ない・部屋が狭い」等の意見があった。②卓球や短歌等の講座の実施回数を増やしてほしいとの要望があったため、可能なものについては7年度から実施回数を増やすなどの対応を行った。 (2) 愛光園：①食事嗜好や給食の満足度、要望についてアンケートした結果、「献立が良い」、「栄養バランスが良い」と概ね満足されていた。②概ね満足されていた。①②とも、調査結果を基に改善等が必要な事項については、段階的に実施している。 (3) 大平園：①コロナ以降、外食が十分できなかったこともあり外食希望が多く出ており、今後できる限り対応していく。調査結果で集計された主食の残食や硬さ、おかずの残食、味付け等の意見を給食受託業者へ給食会議等で報告し、随時、改善を行った。（避難時の食事内容が少ないことから、献立の見直しを業者に依頼した。）②居室について、前年度と同様に「狭い」という意見があり、引き続き整理整頓の実施を行なっているが、十分な対応が出来ていない。帰省については、身元引受人の高齢化や家族事情等が複雑化していることで、帰省の実施が出来ない利用者が多くいる。 (4) なかよし園：調査結果について、県への提出、保護者や保育所・幼稚園等への紙面配布、調査結果をファイルに綴じ施設の玄関に設置 ホームページへの掲載などを行った。保護者や保育園・幼稚園等の事業所からの意見を参考にしながら改善に努めている。また、保護者や保育園・幼稚園等への情報提供やコミュニケーションの場・機会を作り、事業に対する理解を深めてもらうよう取り組んでいる。 (5) わかくさ園：利用者の活動状況や園での様子等は、都度、連絡帳を通じて保護者に伝えており、支援内容について保護者の理解が得ることができていた。「いつも楽しみにしています」等、感謝の言葉の回答もあり、利用者本人も保護者も安心して園を利用いただけている。6年度は職員の異動もあり、一部「名前が分からない職員がいる」という回答があった。送迎の都合で直接会えない保護者がいたためと考えられるが、今後も不安なく利用継続できるよう、園の現状をきちんと伝えていくなど対応していく。

6 評価

指定管理者による 自己評価	1.身体障害者福祉センター：利用者には、身体の症状や日々の状況により日常生活に支障があって機能訓練を必要とする者も多い。安全・安心に日常生活を送ることができるよう理学療法士、作業療法士による相談を通じて、個々の身体機能の症状や状況を把握し、機能訓練支援や各種講座、スポーツ訓練等への参加を継続的に行うことで、身体機能の維持向上や体力強化に繋がる支援を提供することができた。 2.愛光園：アンケートでは、概ね利用者の満足を得られた。就労支援では、新たな取引先の開拓など情勢の変化に対応できるように努め、ベンチ塗装等の新たな作業を受注するなど、利用者の作業の幅を広げることができた。平均工賃も前年度の18,905円から19,070円に増加した。また、感染症対策の徹底を図ることで、施設を休園することなく事業を継続することができた。 3.大平園：5名の新規入所者を迎えることができた。行事参加、短期入所や日中一時支援の受け入れなど、コロナ以前の状況に戻ってきた中でも感染症対策は継続して行ったことで、2度の新型コロナウイルス感染者の発生があっても適切に対応し、事業を継続することができた。また、居室の一部をフローリングに改修したことで、車椅子や歩行器の利用者のベッドへの移動などがスムーズに行えるようになり、利用者のQOL向上や転倒リスクの軽減などに繋げることができた。 4.なかよし園：新型コロナウイルス感染症による事業の制約がほとんどなくなった。療育支援について、3クラス体制としたことで個別にきめ細やかな支援ができ、療育の効果も上がり保護者到大変好評だった。保育所等訪問支援は、契約児童が増加したものの訪問支援職員の兼務により、毎月の訪問ができなかった。放課後等デイサービスは、強度行動障害や重度心身障害、要保護対象児童等の受け入れを積極的に行い、個々の特性を把握し適切に療育支援を行うとともに、保護者への相談事にも対応できた。 5.わかくさ園：保護者に対して、連絡帳を通じて利用者の状況や取り組みの様子をこまめに報告し、密に情報を共有することで、高い信頼と満足を得ることができた。また、看護師による日々のバイタルチェックや機能訓練を実施することで、体力・機能の低下を防止し健康管理の充実を推進することができた。
市の評価	施設の設置目的や指定管理業務を十分理解し、協定（仕様書）に基づいた業務を適切に行っている。関係法令の遵守に努め、外部・内部による職員研修の実施により、職員の資質向上を図っている。また、利用者や保護者のニーズに合ったサービスを提供するなど、利用者が快適に利用できるような努めている。そうした取り組みの結果、利用者アンケートにおいて、どの施設も比較的高い満足度を得ていることは評価に値する。 経営状況は、業務開拓や利用者の増加に努めたことで前年度から大きく改善している。ただし、施設利用者は定員割れしており、また、今後も人件費や物価高騰が見込まれることから、健全な経営基盤の確立のため、引き続き経費削減や利用率の向上への取り組みが必要である。